

---

# Turning Point

神山 備

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Turning Point

### 【コード】

N0176Y

### 【作者名】

神山 備

### 【あらすじ】

拙作「バニシング・ポイント」を菅沼（北村）冴子の側から書いてみました。

好きで好きで、奥さんから奪いたいとまで思っていた大学時代の先輩、衛の死。夫と出向いた告別式で、先輩のかつての妻博美をそこで見た冴子は、晩年の衛の様子を知り、思わず彼女の頬を打ってしまうのですが……

Turning Pointとは改心の意味も持ちます。「バニシング・ポイント」で、後日の博美と冴子の仲の良さがどこからきているのかというご指摘があったので、書き始めた物です。

そのため宗教色が色濃く出ています。予めご了承ください。

現時点で、この原稿はサイトと他1箇所べつに掲載されています。

## 突然の訃報

それはいつも変わりない連休の朝だった。私たち家族は遅めの朝食兼昼食を摂っていた。電話が鳴った。

「ママ、でんわだよ」

電話をとった次男の健斗が私に電話を持ってやって来た。

「誰から？」

「美加ちゃん」

それはかつての会社の同僚、高田美加だった。未だに独身を貫いている彼女は、自分には子供はいないんだからおばさんだなんて呼ばせないと、私の子供たちにも『美加ちゃん』と呼ぶように強要するような奴だ。

「もしもし？ 休みの日なのに何か用？」

私がそう言っただけで電話に出ると、美加は電話口で大きく息を吐いてから、

「ねえ冴子、落ち着いて聞くのよ」

と言った。でも、そう言う美加自身がそうとう慌てている感じがした。

「何よ、いきなり」

「今朝、寺内さんが亡くなったの」

私は事態が全く飲み込めないで、しばらく口をぱくぱくと開けたり閉じたりした後、ようやく

「寺内さんって、あの寺内衛さん？」

と聞いた。

「そうよ、営業の寺内さん。事務所で倒れて亡くなっているのが発見されたらしいわ」

「ウソ！」

「ウソじゃないわ。とにかくお通夜とか告別式とかまた連絡入れるから。篤志さんにもそう伝えて。じゃあ、そういう事だから。他にも回さないといけないから切るね」

美加はそう言って電話を切った。

「高田がなんだって？」

電話を切って蒼い顔をしている私に夫篤志がそう聞いた。

「先輩が死んだって」

寺内さんは会社以前に大学時代のサークルの先輩でもあった。社内結婚した夫の篤志に、名前を冠せず先輩と言う時にはたいい彼のことだった。

「先輩が死んだ？ 嘘だろ？ 金曜日に、『休み明けに一気に形にしたいのがあるから』って張り切っていたんだぜ」

「今朝、事務所で死んでいたって。後のことは、追って連絡するからって」

「マジかよ、それ」

私は美加の言ったことを事務的に篤志に伝えた。あまりに突然のことに篤志も驚きを隠せない。

葬儀のことは、夕方になってやっと美加から連絡があった。

「えーっと、お通夜が明日の夜7時半からで、告別式が次の日の朝11時ね。場所は……○○教会？ 冴子、○○教会って知ってつか？」

私は黙って頷いた。そこは17年前、先輩が結婚式を挙げた場所だった。

「ああ、冴子が場所知ってるって。俺が定時にできれば間に合うから、途中で冴子拾ってお通夜の方に出させてもらうわ。えっ、分かった。ほい、高田が電話代わってくれて」

そして、連絡事項を言い終えた美加は篤志に私に代われと言ったらしい。篤志は私の手の上にそう言ってポンと子機を乗せた。

「冴子、大丈夫？」

「何が」

「ムリしなくて良いからね。なんなら、地図ファックスしようか？

教会の方から会社に送ってもらってるから。それで篤志さん一人で行ってもらえばいいじゃん」

長い間先輩を思い続けたことをよく知るこの友人は、別れた奥さんの方が信者である教会で告別式をすることを気にかけてくれているのだ。

「良い、大丈夫」

そうだ、だからと言って私は先輩の今の妻でも愛人でもない。菅沼篤志という男の妻だ。先輩がかつての奥さんとよりを戻そうが何をいう権利もない。

「ただど……どうしてあの人なのだろう。どうして、私ではいけないのだろう。」

何度も自問自答したその問題をまた心の中で蒸し返して唇を噛みしめた私に篤志は、

「辛いだろうけど、ちゃんとお別れはしてこないとな。あとで後悔するから」

と、私の頭に手を乗せてそう言った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0176y/>

---

Turning Point

2011年10月29日14時26分発行